

アスパーダより

No.443 元年 8 月 15 日発行

大石葵

みなさん、**e-sports**をご存知ですか？

近ごろ、あちこちで耳にする機会の増えた **e-sports** という言葉。**ゲームがオリンピックになる！**とニュースでも話題になっています。

そこで今回は最近話題の **e-sports** についてまとめてみました。



そもそも e-sports とは

e-sports とは「エレクトロニック・スポーツ(electronic sports)」の略。

広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使ったスポーツ競技のことを指します。

簡単に言うと、複数人のプレイヤーで対戦するゲームをスポーツとして解釈して「e-sports」と呼びます。

「スポーツじゃないじゃん」と思う方が多いと思いますが、アメリカではすでに、国が「**e-sports**」を「スポーツ」として認めており、「プロゲーマー」が「スポーツ選手」であることを認めています。また、韓国や中国でも「**e-sports**」が非常に発展していて、市場規模も日本とは桁違いになっています。

**賞金総額 40 億円超えの大会
なども開催されています！**

残念な話ですが日本は世界から「**e-sports**」の後進国と呼ばれており、まだまだ「**e-sports**」という単語すら認知度が低い状態なのです。

e-sports が盛んな国で「私はプロゲーマーです」と言うと、サインを求められるくらい「**e-sports**」の地位は確立されています。日本でそうなるのは、もう少し先の未来になりそうです。

ゲームがオリンピックになる！？

現在 **e-sports** に携わっている競技者は世界で約 1 億 3000 万人以上いるとされており、人口超大国の中国では将来的に 3 億 5000 万人もの人数が **e-sports** の競技者になるとも言われています。

そんな勢いを魅せる **e-sports** ですが、2022 年、中国・杭州で開催予定の第 19 回アジア競技大会(通称アジアオリンピック)では、**e-sports** は正式種目となることが決定しています。そして、2026 年の大会は日本の愛知・名古屋で開催されることが決定しています！

また、2018 年にインドネシアのジャカルタで開催された“第 18 回アジア競技大会”では、デモンストレーション競技の一種として **e-sports** が採用され、その中の競技で、日本代表が決勝に進出し、決勝でイランを破り、金メダルを獲得しました！

まとめ

近年あちこちで注目を集めている **e-sports**。

ゲーム制作会社の方が小学校で、ゲーム用語を用いた算数の授業を行うなど、教育の場にも浸透してきています。

その他にも、プロゲーマーになるための専門学校や、高校の部活動で **e-sports** を行っている学校もあります。

第12回 男子児童		
順位(前回)	職業	票数
1 (2)	野球選手・監督など	112
2 (1)	サッカー選手・監督など	106
3 (3)	医師	77
4 (4)	ゲーム制作関連	54
5 (12)	会社員・事務員	38
6 (6)	ユーチューバー	35
7 (5)	建築士	29
7 (11)	教師	29
9 (7)	バスケットボール選手・コーチ	24
10 (10)	科学者・研究者	23

2018 年度 小学生がなりたい職業 top10

なんとあのユーチューバーを差し置いて第 4 位につけています！

みなさまのお子様やお孫さんが「将来はプロゲーマーになりたい！」と言う日が、もしかしたら来るかもしれません。

そうになったら「ゲームは遊びだから」と、頭ごなしに否定せずに、本人がどれだけ本気かを見てあげることが大事だと思います。(もしかしたら年俸〇〇億なんかの超有名プレイヤーになるかもしれませんよ)

参照:インターネット